

振り返って見たジャンダルム

山行日：8月13日～15日

参加者：KMSD、他2名

工程：1日目 上高地6:42ー西穂山荘9:45

2日目 西穂山荘3:58ー西穂丸山4:12ー西穂独標5:04ー西穂高岳6:24ー間ノ岳7:55ー
天狗の頭8:51ージャンダルム11:09ー奥穂高岳13:09ー穂高山荘14:14

3日目 穂高山荘6:04ー涸沢7:51ー 横尾10:55ー上高地13:46

一昨年の不帰キレット、昨年の大キレットに引き続き、大胆にも今年はジャンダルムを目指す。

山を始めてかなりたった頃に、ジャンダルムという言葉と、その山を超えるには送り出す初めの言っPの左右を間違えると、進めなくなる恐ろしい山が日本にあると伝え聞いた。その姿は、なかなか写真で目にすることがなく、頂上の写真も、岩の塊と天使の写真だけであった。昨年、前穂高岳から吊尾根をへて奥穂高岳の頂上にたった際に、ガスが一瞬晴れて、岩稜の塊が浮かび上がり、それがジャンダルムを間近で垣間見た一瞬であって、近寄り難い真っ黒な風景にただただ唖然とした。

1日目の10時前に宿の西穂山荘につき、雨降るガスの中、翌日の天気を気にしながら、夕食までの時間を過ごした。ジャンダルムへの2日目は、ヘッドライトの明かりのなか4時前に山荘を出た。西穂丸山についたのは4時過ぎで、ランプの明かりの中に頂上を確認した。後ろに朝日を浴びた乗鞍岳と焼岳の真っ赤な山肌と、左面には笠ヶ岳の稜線が並ぶように顔を出す。ここでヘルメットを装着し、西穂高岳を目指す。プラミッドピーク、チャンピオンピークなどのP8からの偽ピークをP1へと進み、6時半前に西穂高岳頂上についた。頂上からは、槍ヶ岳のピークと穂高の吊尾根、前穂高岳が望まれ、これから進む吊尾根の左端は、幾つものピークが何かを隠している。ピークとコルを上下したあとの岩の隙間



を超える際に、岩肌に間ノ岳のペイント表示で間ノ岳を通過したことを確認した。更に上下をへて、天狗の頭のピークへと粛々と進むと、天狗の頭の表示板を確認し、記念写真をとる。最後の下り後に、岩稜をひたすら登ると、左奥にゴツゴツしたジャンダルムの頭が垣間見えた。コブ尾根ノ頭を上りきると、目の前にジャンダルムと、右奥に奥穂高岳のピークが初めて現れた。

ジャンダルムの最後の登りは、程なく登りきり、天使の待つ頂上を得た。頂上は思った以上に広く平坦であったが、天使を掲げて記念写真を取る。あらためて奥穂高岳のルートを確認すると、石片の落下した岩稜帯のみがありルートも見当たらず、近く様で、3時間ほどかかる稜線の難しさを傍観した。ジャンダルムからロバの耳へ向かい、後ろを振り返ると、おぞましき岩の塊が迫りきっていた。急いでカメラのシャッターを押した。